



生活クラブ福祉事業基金

つながりづくり助成団体との 活動共有・交流会

2026.3
福祉担当理事

2025年12月10日(水)千里公民館にて、生活クラブ福祉事業基金つながりづくり助成で連携する団体とエッコロ委員会、理事、居場所よりみち・ほっとこのスタッフと活動共有、交流会を行いました。

生活クラブ福祉事業基金

つながりづくり助成とは？

生活クラブと共に地域の中でのつながりや支え合いをつくり、福祉の日常化をすすめチャレンジ性を重視した新たな取り組みを支援する助成です。

*福祉の日常化とは、日常の中に支えあう関係をつくりだすこと、誰もが担い手となる在りようをめざすことです。

①みんなの食堂・子ども食堂②フードバンク事業③学習支援・居場所事業が対象となります。

これまで生活クラブ生協大阪が推薦し助成された例

2024年 さぼさぼ(多世代の居場所)、あひるポート(多世代の居場所)

2025年 ミロク堂(農業を通じた親子の居場所)

2026年 おいで！moi！（多世代の食堂）

生活クラブ福祉事業基金とは？

組合員やCO・OP共済契約者からの寄付金を財源とし、生活クラブグループが地域で展開する福祉事業（高齢者支援、子育て支援、障がい者支援など）や地域団体へ助成する仕組みです。

各団体からの

活動報告を聞きました

さぼさぼ…地域のコミュニティーセンターを利用して、頭と体を使う体操「ハーモニー」をみんなで行っていきます。地域で毎回楽しみに来てくれる方がいるそうです。

あひるポート…エッコロ共済暮らしのサポートで連携する福祉団体で「おかえりびんぐ」という多世代の居場所で手芸や歌を歌ったり来る人が楽しめるイベントを行っています。

近所の子ども対象に「お預かり託児」を行っています。

ミロク堂…地域の耕作放棄地を利用し小麦、野菜を作り、作ったものをみんなで食べたりしながら親子が集える場づくりを行っています。

2026年度助成が決定した「おいで！moi！」はすでに地域で福祉の活動を行う組合員が集まり、朝ごはん、お昼ごはん、イベントを通じて様々な人々が集まり交流できる食堂を行います。



交流会

テーマ：福祉の日常化(日常の中に支えあう関係をつくりだすこと、誰もが担い手になるありようをめざすこと)のためにできること



ワールドカフェ方式でテーブルを移動しながらテーマについて意見交換を行いました。それぞれの立場や地域性などにより、自分の地域でどんなことができるのか考えるきっかけとなりました。



こんな意見が出ました！

- ・待っているだけでなく自分からどんどん動いて情報を集めて人を巻き込んでいく。
- ・助成団体とのつながり方を考える中で、若い世代にあらためて食だけでない取り組みを伝えていきたい。
- ・どんな活動でも、参加者や活動する仲間を増やしていくことはなかなか難しいと実感します。まずは続けていくこと、自分たちが心地良く過ごせる場所を作って行こうと思います。
- ・各団体が地域の中で居場所や繋がり場のいろいろな形で作られているのを知ることができて良かったです。

まとめ

各団体とも、その地域でどのようにして人と出会えるか考え、出会えた地域の人とのつながりを大事に活動していることがわかりました。体操、食べること、手芸などの目的をもってまずは集まることから始めてつながりをつくり、外に出かける、誰かとおしゃべりをする、関わるといことで孤立を防ぐという役割になっていると思いました。各団体の人と人との「つながり」が生まれる活動を今後も共有し、それぞれの活動に活かせる機会を作ります。